

さぶ

山本

周五郎

小雨がもやのようににけぶる夕

方、両国橋を西から東へ、さぶ

が泣きながら渡っていた。

双子縞の着物に、小倉の細い

角帯、色のあせた黒の前掛をし

め、頭から濡れていた。雨と涙

とでぐしよぐしよになった顔を、

ときどき手の甲でこするため、

眼のまわりや頬が黒くまだらに

なっている。

●書ける字はなぞりましょう。声に出して読みましょう。